知床の世界遺産と希少種

１月30日、知床を世界自然遺産に登録するよう求める推薦書が日本政府からユネスコ本部へ提出されました。このあと、国際自然保護連合（IUCN）の現地調査が行われ来年６月に開催される世界遺産会議で登録の可否が決められる予定です。

世界遺産へ登録されるにはいくつかの「登録基準」を満たしていなければなりません。知床が満たしている基準の一つは特徴的な生態系です。流氷の訪れる知床の海は豊かな海洋生物が海の生態系を形作り、多くの河川が豊かな陸上の生態系と結びつけています。もう一つの基準は知床が絶滅が危惧される希少種を含む多様な生物の生息地となっていることです。

国際的な希少種となっているシマフクロウは国内で120羽程度、ロシアに生息するものをあわせても世界で250～数百羽程度生息するだけですが、知床は国内最大の繁殖地となっています。シマフクロウの生息を可能にしているのは餌となる河川の魚類が豊富なことと河川流域の森林環境が良好に保たれてきたからです。オオワシも世界に5000～6000羽程度しか生息しない希少種です。ロシアのオホーツク海周辺部、サハリン北部などで繁殖したオオワシの多くが、宗谷海峡を通って北海道に渡り越冬しています。知床などを中心に北海道で越冬するオオワシの数は2000羽を越えますが、知床半島は最大の越冬地となっています。オオワシの越冬には豊富な餌とねぐらとなる森林が必要です。川に上ったサケ、海の魚類や海鳥類、鯨類の漂着死体や氷上のアザラシ幼獣などが越冬期のオオワシの餌になっています。海に近い針広混交林はオオワシにとって風雪を避けることのできるねぐらや休み場となっています。流氷は豊富な餌をもたらすだけでなく、海の上の止まり場ともなっています。オジロワシは我が国では北海道だけで繁殖する種ですが、その３分の１は知床で繁殖しています。知床のオジロワシは海岸の大木に営巣し、海の魚や海岸に生息する海鳥類を餌にしています。また、冬期はロシアの繁殖地から南下したオジロワシも加わり知床の越冬個体は200～600羽にもなります。

このほか、生態はよくわかっていませんが海鳥のマダラウミスズメが知床沿岸に生息し繁殖の可能性があります。また、根室海峡に冬期回遊するトドは北太平洋全体で激減しており、IUCNのレッドリストでは絶滅危惧ＩB類に分類されています。

このように知床が国際的な希少種の繁殖地や越冬地となっていることが世界遺産として評価される大きな理由になっています。知床半島には原生的な自然環境が永く保存されてきました。また、1964年の知床国立公園の指定以降、開発の抑制や産業活動と自然保護の調和がなされてきたことが、これらの希少種の生息地として保たれてきた理由です。世界自然遺産に登録されることで、国際的にも貴重な地域と認められることになりますが、地元として知床の環境や生物を今後どう守って行くかが問われることになります。特に希少種の保護のためには生息環境や餌資源の保護はもちろんのこと、様々な人の活動が与える影響を回避して行くことが重要になります。世界遺産登録を契機に知床を訪れる人の数はさらに増加するでしょう。それぞれの種の生態を良く知ったうえで、自然と接するルールをより具体的に検討して行く必要があります。（中川）

知床の主な希少鳥類（レッドリスト記載種）

	レッドリストカテゴリー	
	環境省（1998）	ＩＵＣＮ（2000）
シマフクロウ	絶滅危惧ＩＡ類	絶滅危惧ＩＢ類
オオワシ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
オジロワシ	絶滅危惧ＩＢ類	準絶滅危惧
マダラウミスズメ	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類

雪が降らないなと思っていたら、３日間猛吹雪。斜里の町中は雪に覆われ、博物館も雪に埋まるほどの大雪でした。吹雪が去った後の除雪も、やっと落ち着きました。自然の猛威を感じる３日間でした。

発行　斜里町立知床博物館協力会　2004.1.20
099-4113
北海道斜里郡斜里町本町49　斜里町立知床博物館内
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257
http://www5.ocn.ne.jp/～museumsp/